

経営比較分析表（令和6年度決算）

佐賀県 玄海町

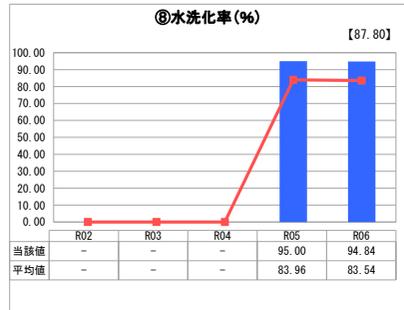
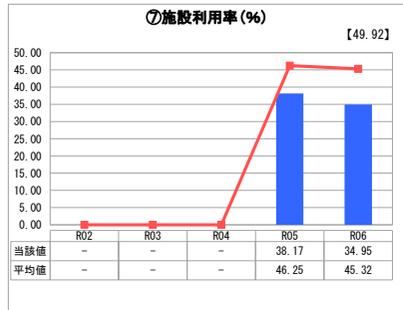
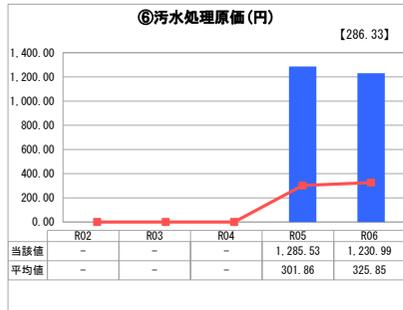
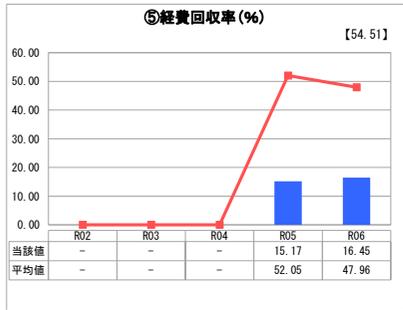
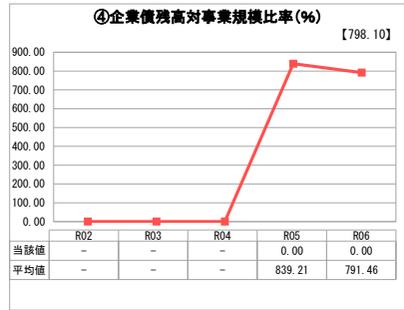
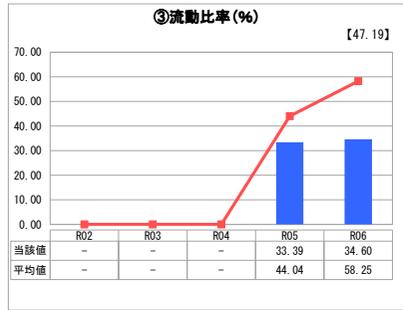
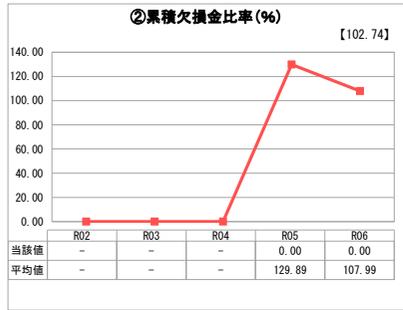
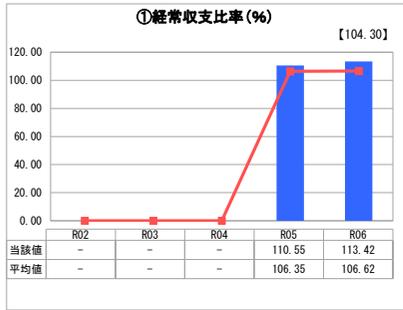
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金(円)
-	69.42	8.56	107.26	3,850

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
4,825	35.92	134.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
407	0.21	1,938.10

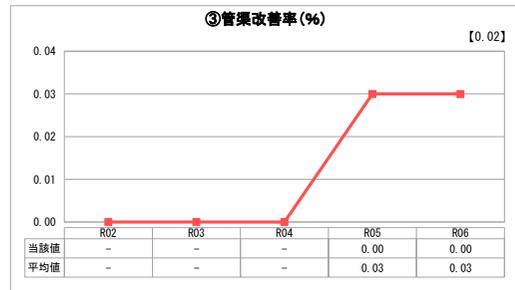
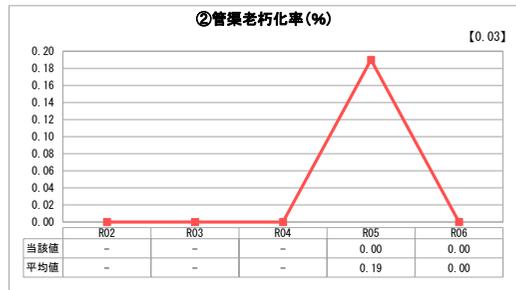
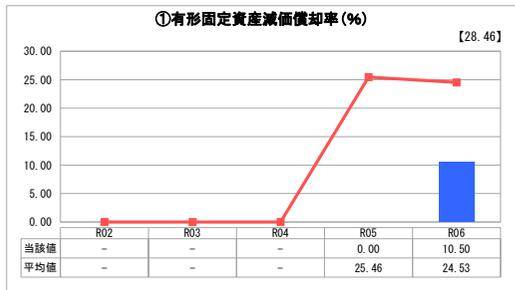
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

料金改定を行い、令和6年度に人头制から従量制へと移行したこともあり、使用料収入が微増した。また、主に処理場費等の支出を前年度よりも抑えられたことから、①、③、⑤及び⑥の指標についてはやや良化している。

しかし、③、⑤及び⑥については類似団体平均値と比べると大きく乖離しており、特に⑥汚水処理原価については1,000円近い差が生じている。

今後は修繕や更新工事に更なる費用を投じていくことになることを踏まえ、更新のタイミングでのダウンサイジングや公共下水道への接続、または合併処理浄化槽への切替えなど、より効率的で持続可能性の高い手法を検討していく必要がある。

⑦節水型住宅設備の普及や区域内の人口減少が利用率低下の原因と考えられる。

⑧類似団体の平均値以上の水準を維持している。

2. 老朽化の状況について

座川内・湯野尾処理区は平成17年度、小加倉・有浦下処理区は平成18年度に供用開始した。

管渠老朽化についてはまだ先のことではあるが、耐用年数を超過する前にカメラ調査等による劣化度判定や農業集落排水施設最適化構想等により、計画的かつ効率的に更新を進めていく準備を行う必要がある。

全体総括

1. ⑤経費回収率や⑥汚水処理原価の類似団体平均値との乖離を見てもわかるように、財政的に健全な運営ができていないと難しい状況である。料金改定を行ったとはいえ、人口減少が想定を上回っており、今後の使用料収入の劇的な良化は見込み難く、しばらくはこの経営状態が続くことが予想される。

1の分析欄でも触れているが、施設のダウンサイジングや公共下水道への接続、合併処理浄化槽への切替えといった選択肢を視野に入れつつ、財政状況の良化に努めていかなければならない。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。